

論文審査の結果の要旨

氏名：大 角 彰 仁

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Absence of coronary angiography-derived in-stent thrombi is associated with major bleeding events in acute myocardial infarction

（冠動脈内視鏡検査由来のステント内血栓の欠如は、急性心筋梗塞における主要な出血イベントと関連している）

審査委員：（主 査） 教授 田 中 正 史

（副 査） 教授 松 本 直 也 教授 天 野 康 雄

教授 日 臺 智 明

本研究は急性心筋梗塞（AMI）の亜急性期に冠動脈内視鏡検査（CAS）によって検出されたステント内に付着した血栓が将来の大出血イベントや主要心血管イベント（MACE）に関連するか否かを後ろ向きに調査したものである。

結果として①AMI患者の50%以上で、ステント留置後16日目にCASによりステント内血栓が同定された。②非ステント内血栓群ではステント内血栓群よりも高頻度で大出血イベントを起こしていたが、抗血小板薬二剤併用療法（DAPT）期間における有意性を認めなかった。③ステント内血栓群と非ステント内血栓群の間にはMACEの発生率に有意差を認めなかったが、ステント内血栓群は非ステント内血栓群よりも心筋梗塞/不安定狭心症のイベントが多い傾向であった。

以上からCASで確認した非ステント内血栓群は将来のMACEイベントには関連しなかったが、大出血イベントに有意に関連していることを示し、亜急性期のCAS所見は至適なDAPT期間の決定に役立つ可能性があると考えられると結論づけた。

本研究は今までに報告の少ないAMIの亜急性期にCASによって検出されたステント内血栓の存在の有無と将来の大出血イベントやMACEを検討し、ステント内血栓が存在しない場合は将来の大出血イベントの発現率が高くなることを示したことで、CASによるステント内血栓の有無が至適なDAPT期間の決定に役立つ可能性があることを同定した点で新規性のある有用な内容である。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和5年2月22日